

令和6年3月15日

3月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県の原木生産は降雪などの天候不順で若干減少したが、今後は順調に出材される予定。各地区共販所への入荷はスギ、ヒノキとも順調である。間伐材、小径木も順調。製材工場の原木引き取りは若干鈍くなり、極積み場所の確保に苦慮している。スギ3.0m柱物は保合推移、4.0m中目は良材の引き合いは強いものの全体的に保合。ヒノキ3.0m柱物は弱保合、4.0m中目は引き合いが弱くなっており、値下げ傾向にある。

群馬県では原木集荷は容易になり、入荷も順調。製材工場では人手不足のため操業率は80%程度だが、製品の売れ行きが悪いため、現状で十分間に合っている。首都圏の製品市場からの受注は低調で地場の仕事も少なく、また公共工事予定が遅れており、先行き不安が強い。売れ行きはここ20年で最も悪いという。全ての製品で在庫が多く通常の1.2倍である。製品価格、売れ行きとも相変わらず厳しい状況が続いている。

2. 米材

北米大手の Interfor 社が米国オレゴン州とカナダ BC 州の工場の減産を発表した。減産の要因としてオレゴン州では原木高、BC 州では弱い製品市況に加え原木伐採量の減少があげられている。米国の港頭在庫は日本大手米マツ製材の取引量の減少もあり潤沢である。カナダでも伐採期に入り、港頭在庫は平常に戻りつつある。米マツ IS 級並の3月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千 SCR で決着した模様(Weyerhaeuser 社と中国木材の成約価格が公表されず推測の域を出ない)。1月の米国新設住宅着工数は前月比8.8%減の年率換算133.1万戸となった。産地の製材品価格はほぼ横ばい。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(3/5)は\$403/M、2月頭に比べ3.6%の上昇。

1月原木入荷は150千 m^3 となり、昨年8月以来の150千 m^3 超えになった。京浜地区に24千 m^3 の入荷があり、鹿島から日向への横持ち分と見られる。出荷は153千 m^3 とほぼ入荷と同量。在庫は国内移送分を含め前月より減少し150千 m^3 となり、在庫率は1.25ヵ月となった。東京木材埠頭の2月製品入荷は11千 m^3 (前月比26.7%減)、出荷は11千 m^3 (同4.2%減)、在庫は37千 m^3 (同0.7%増)。新設住宅着工戸数の減少に代表される需要サイドが大きく減少している

ため、国内米材製材メーカーへの発注は低調である。

3. 北洋材

シベリア産地では原木伐採量は依然として少ない。ウクライナ戦争の影響により機材不足もあり、伐採意欲は低下している。中国向けは低調が継続している。日本市場では高値警戒感が出始めているが、産地シッパーは生産数量が少ないため強気の姿勢である。ウズベキスタン等のローカル市場向けの低グレード製品の引き合いは堅調である。アカマツ原板のオファー数量は極めて少ない。アカマツ完成品では強気なシッパーは\$600/m³近くを唱えており、ある程度契約残のある日本のバイヤーは慎重になっている。30×40の良材は100,000円/m³を超えてくるものと見られる。アカマツ野縁製品の流通在庫は低水準であり、依然として引き合いが強い。先物オファーのコスト上昇により価格も強含みとなっている。国内の北洋材製材メーカー各社は原板手当てに苦戦し非常に厳しい状況にある。原板製造ではなく、完成品を買って仕訳するメーカーも増えてきており、今後は業種転換等も予想される。

1月の製品入荷(東京+川崎)は11.7千m³で前月に比べ若干増加、12月を底に今後12~13千m³に戻ると予想される。出荷は13.7千m³で前月比で減少しているが堅調。在庫は23.7千m³で、今後多少の増加が見込まれる。

4. 合板

合板価格が弱含む中で、合板メーカーの原木仕入価格は多少の調整がある模様。しかし原木価格が下がれば山側の生産意欲が低下する恐れもあり、メーカーは仕入価格を維持したい意向である。

1月の国内合板生産量は20.1万m³、うち針葉樹合板は19.9万m³、出荷量は19.7万m³で在庫量は16.8万m³となり、うち構造用合板の在庫は13.6万m³で前年に比べ高水準な在庫状況が続いている。不需要期に入り、プレカット工場向けをはじめ針葉樹合板の荷動きは一段と鈍化し、需要の低迷が著しい。流通業者では手持在庫が少なくなっているが、価格がじりじりと弱含んでいる中で、買い時の判断が難しく当用買いを継続している。輸入合板は最小限の在庫で商いに徹しており、流通の在庫量は決して多くない。1月の合板輸入量は前月比1.7万m³増の20.2万m³となり、主要国ではインドネシアの微減以外は増加。産地では2月も原木不足が深刻で、旧正月もあったので合板生産量は減少。シッパーには積極的に受注する動きが見られず、休み明けに状況を見定めてオファーする模様。2月末にかけの新規交渉で値上げの機会を窺っていると見られる。

5. 構造用集成材

2月のラミナ入港量は通常の半分程度と少なく、在庫量は例年通りに戻りつつある。スエズ運河の使用取り止めが相次いでおり、入港遅れによるラミナ欠品が懸念されている。全体的に2~3ヵ月の遅れが見込まれており、国産ラミナの安定確保が課題になっている。現在入港の第4・四半期契約のラミナ価格は€260~280/m³程度である。為替は円安傾向であり、輸入コストは上昇する可能性もある。国内集成材メーカーの製品在庫は適正で、販売は前年同月比90~95%の水準となっている。構造用集成材の1月輸入量は37,372 m³である。

6. 木材チップ(東海)

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材の引合が強い。暖冬の影響で入荷は順調だが、需要が多く慢性的に不足感は強い。燃料材は年末から解体物件の減少に伴い、建廃入荷量が減少。製紙用チップは用紙・板紙の消費が振るわず、一部大手で減産・操短(80~90%)を継続中。冬場の燃料用チップは水分過多になりやすいため、各社乾燥材の手当てに奔走している。バイオマス発電所で火災が相次いでおり、経産省が全国の発電所に点検の指示を出した。

7. 市売問屋

国産材は弱含み、外材は値上げ攻勢というおかしな市況になってきた。先行き値上がりを伝えても買わない状況である。仕事量が少ないため、構造材は国産材、外材とも当用買いに徹する買方が多い。造作材ではスプルー、米ヒバ等の外材が高いため杉柁目(秋田材)が売れている。

8. 小売

首都圏では年明けより木材、建材、プレカットの低迷が続いている。今後も好材料を見つけづらく、危機感が強まっている。ヒノキ原木が一部出材減で強含んでいるが、製品市場には勢いがなく価格は保合。欧州材製品は産地の生産減少やスエズ運河迂回等の要因で価格は強含んでいる。WW 集成管柱は品不足から値上げは避けられない情勢だが、実需が弱く国産材への代替も検討されるため、急激な値上がりには不透明感がある。造作材は盛り上がり欠ける荷動きが続いている。新築物件の造作関係は壊滅的でまとまった仕事がない。店舗関係の造作工事は多少出てきているものの単価が安く、まとまった売り上げにつながらない。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和6年3月15日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↘	↗
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	→	→	→

注) 北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

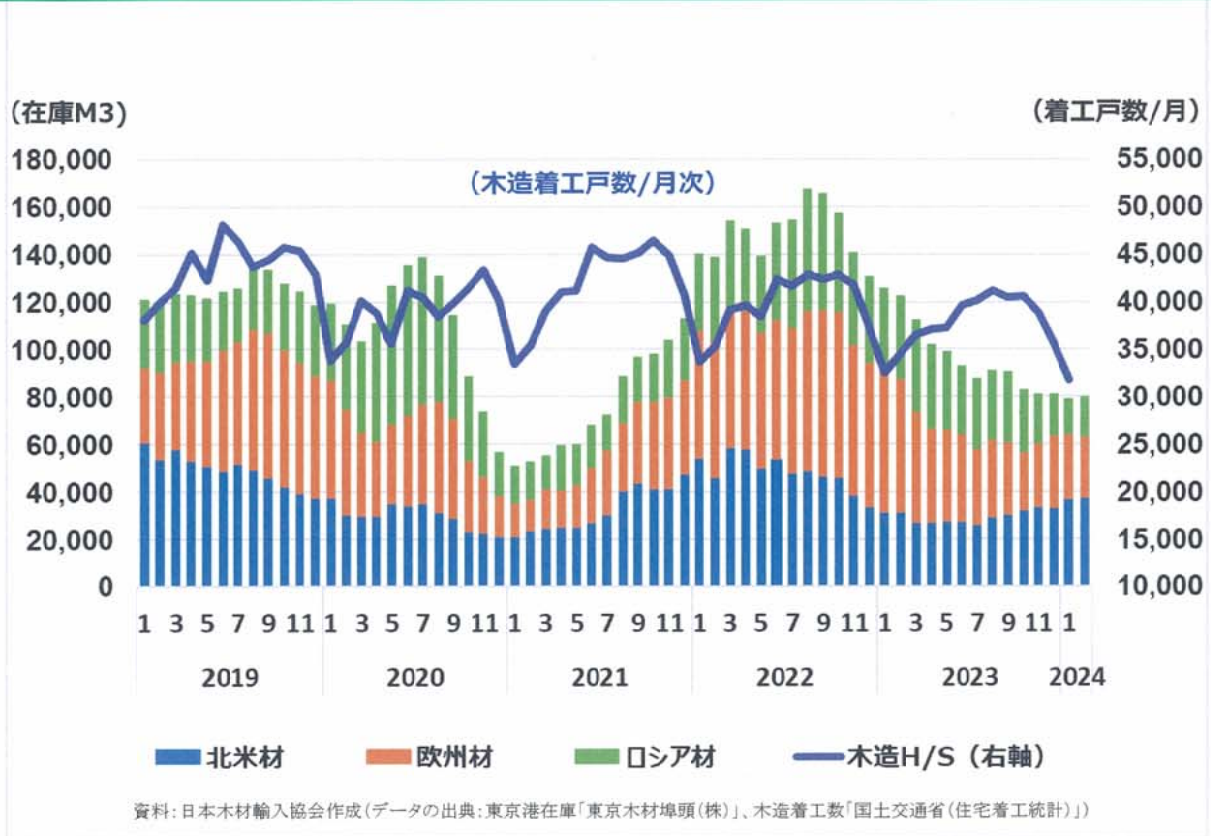
国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↗	↘	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	→
			スギ中丸太(3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材(3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オトラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
(国内挽き)		米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オトラ)	アカマツ(KD) 30×40 上級	↗
			アカマツ(KD) 24×28 栈木	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↗
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m 上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↘
			型枠 12.0mm厚 3×6	↘
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘

参考図表 1

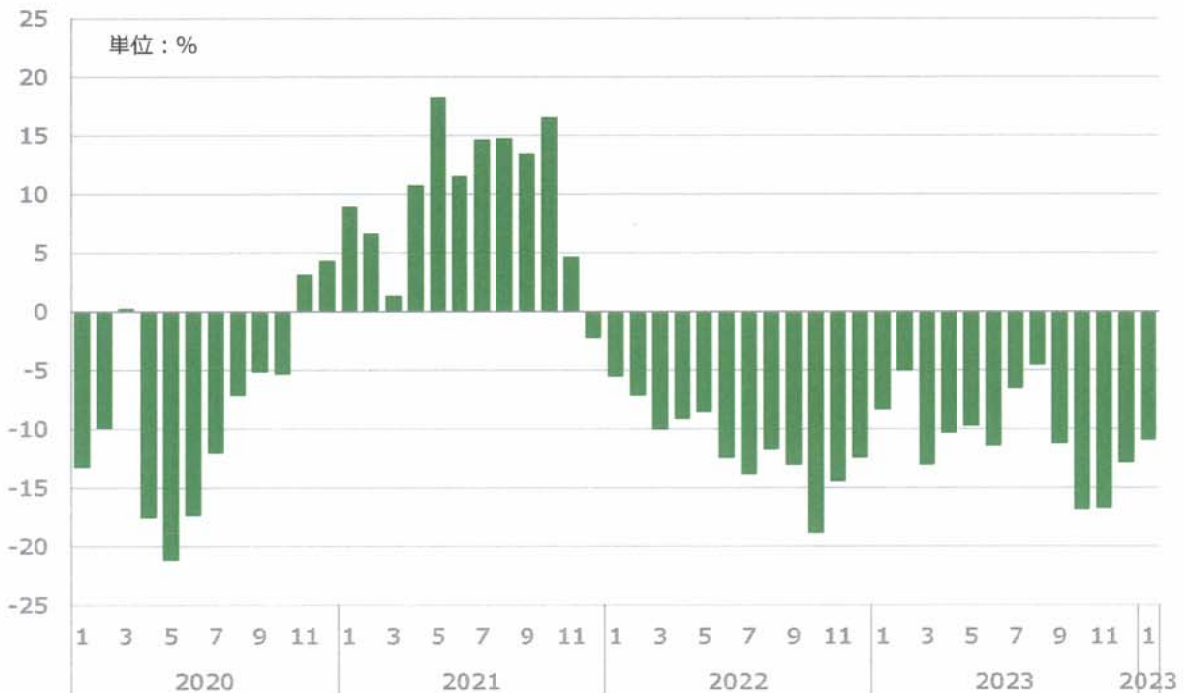
「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移 2019～24年



参考図表 2

木造持家住宅着工戸数の対前年比の推移

住宅着工戸数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工戸数についての、対前年比率。

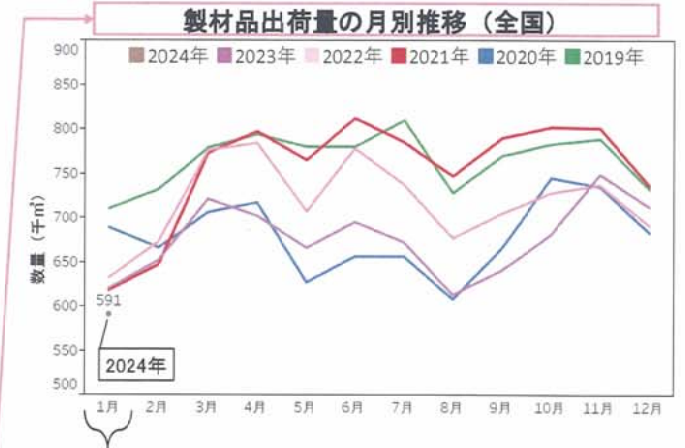
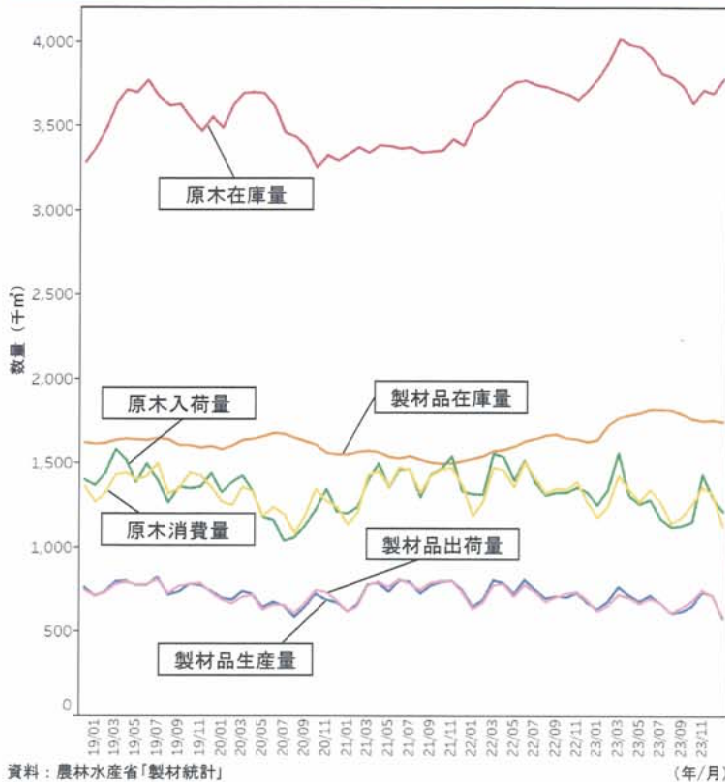


資料: 国土交通省「住宅着工統計」

参考図表 3

工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向 製材（全国）

- ・2024年1月の原木の入荷量は1,214千m³（2019年比89%）。
- ・同様に製材品の出荷量は591千m³（2019年比83%）。



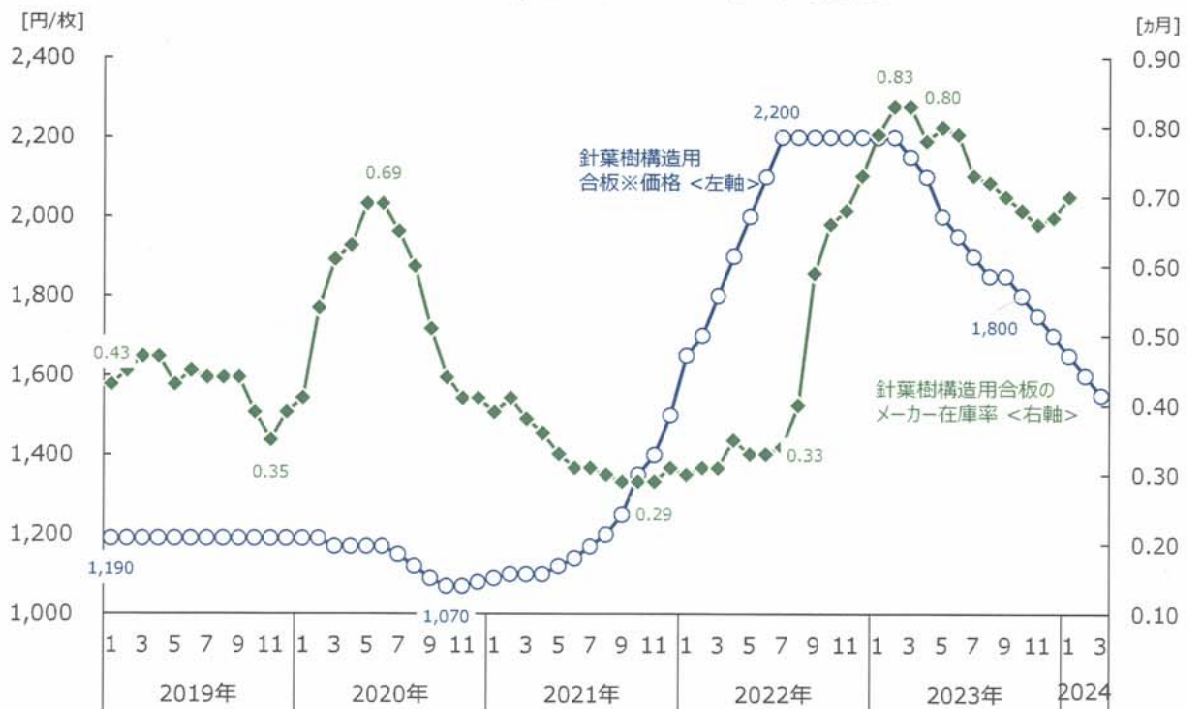
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1月原木入荷量合計(千m ³)	1,357	1,326	1,200	1,316	1,252	1,214
2019年との比較*	—	97%	88%	96%	92%	89%
1月製材品出荷量合計(千m ³)	710	689	618	632	620	591
2019年との比較*	—	97%	87%	89%	87%	83%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

参考図表 4

針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移

在庫率 = 当月在庫量 / 当月を含む過去6ヶ月の平均出荷量

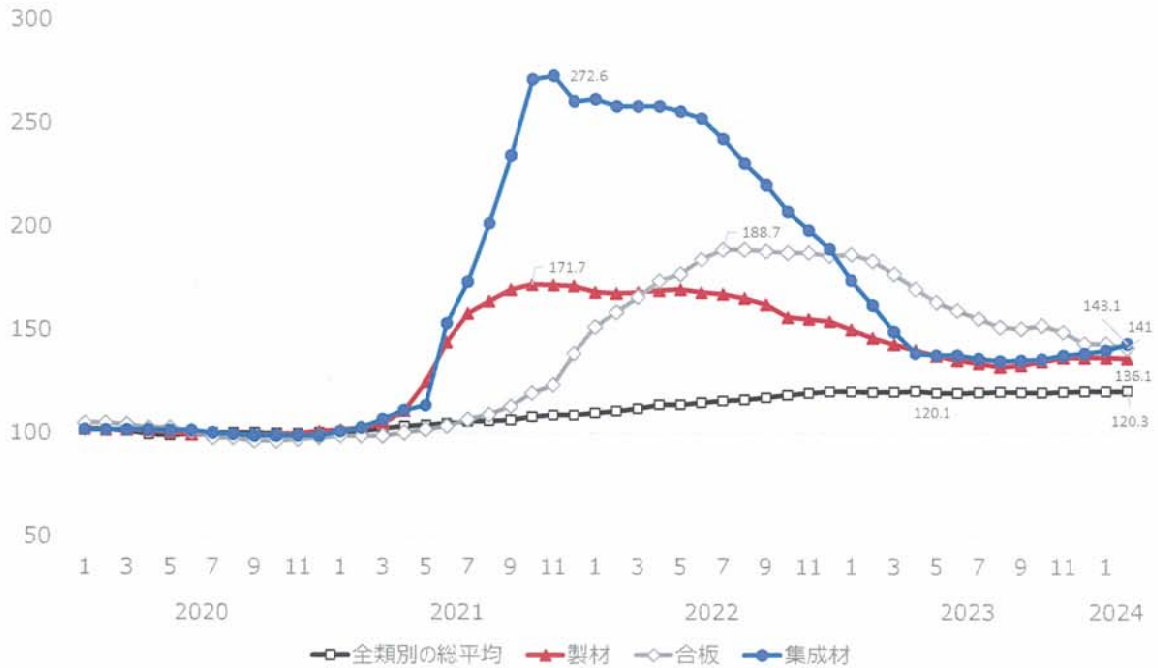


※12.0mm×91cm×182cm、1類

資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」

参考図表 5

国内企業物価指数の推移（2000年平均＝100）



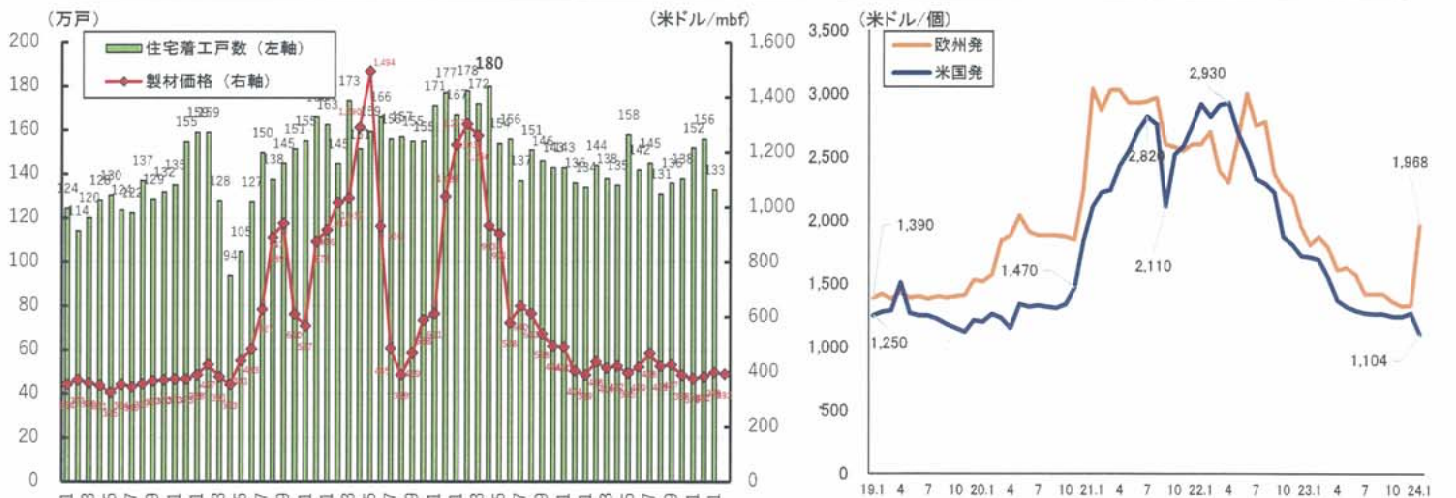
資料：日本銀行「企業物価指数」

参考図表 6

米国における木材価格の動向等

資料：米国輸入品物価について
（注）米国輸入品物価について

- 米国の住宅着工戸数（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後、コロナ禍による在宅需要増加と住宅ローン金利低下により、2020年5月から増加傾向が続き、2022年4月には約180万戸（年率換算）を記録。2022年5月から住宅ローン金利の急騰により再度下落傾向。2024年12月は前月比15%減の約133万戸となった。
- 北米の木材価格は、2020年夏から急上昇。同秋に一旦下がったものの同冬から再び急上昇し、2021年5月には1,494ドル/mbfを記録。以後急落したが、同年9月以降再上昇し、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録。その後再度下落し、2024年1月には392ドル/mbf（前月比▲2%減）となった。
- 日本向けコンテナ運賃は、欧州発、米国発ともに一時期高騰していたが、2022年7月以降は下落傾向が続き、2023年末時点で2019年頃の水準に戻った。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフーシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発コンテナ運賃が高騰した。



資料：（住宅着工戸数）米国商務省「住宅着工統計」（季節調整済み、年率換算、戸建て計）
（製材価格）Random Lengths「Framing Lumber Composite Price」（月末価格、2022年6月以降は月中価格）

米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

（注）40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横濱着、「欧州発」はRotterdam発横濱（出典）Drewry「Container Freight Rate Insight」
資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

日本向けコンテナ運賃の推移